北海道開拓の村テーマ別順路図

お風呂めぐり

おすすめ 展示棟番号 5

(6)

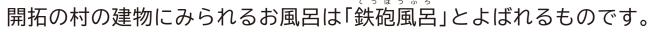
(18)

(23)

38

視点

開拓の村のお風呂に注目したコースです。

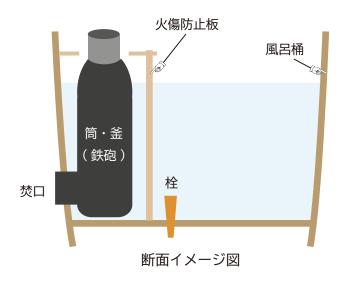


特徴を知って浴室・浴槽の違いを比べてみましょう。

※風呂桶(浴槽)の中はこのシートの写真をご覧ください。展示している資料は破損しやすい状態となっていますので、触れないようお願いします。



火を燃やすための鉄または銅製の筒・ ***
釜を、風呂桶(浴槽)の中に装置した据 え風呂のことです。





旧福士家住宅

浴槽は?

今の浴槽は足を伸ばしてゆっくりお湯に浸かれますが、この浴槽は水を温めるための鉄砲が場所をとるうえ、水量を節約するため、大人一人がかろうじて浸かれる程度の大きさしかありませんでした。うっかり足を伸ばすと鉄砲に触れて火傷!なんてことがあったかもしれません。

家庭のお風呂事情

江戸時代に自宅に風呂を持つ家はごく一部に過ぎませんでした。防火対策の意味もあり、明治に入っても便所と共に離れに備えるのが一般的でした。住宅内に浴室を設ける「内風呂」を備えるようになるのは大正時代以降広がったものとも伝えられます。しかし、寒冷な時期の多い北海道では内風呂の必要

性が高かったのかもしれません。比較的裕福な家庭 に限られるとはいえ明治中頃の建築にも内風呂が確 認できます。

同時期には相当の割合で外風呂も設けられたと考えられますが、開拓の村には移築復元・再現した物件はありません。



旧武岡商店

お風呂の水

屋内への水道設備が無い時代は、もちろん人力で水を汲み入れるしかありませんでした。おおよそではありますが、旧武岡商店の浴槽はバケツ何杯分必要かを計算してみました。

例)旧武岡商店 (高 72×横 85×縦 74) ÷1000=452.88L 452.88×0.7=317.016L (丁度いい湯量は浴槽の約7割) 10L バケツ約 31 杯分!

5旧福士家住宅

開拓使に勤めた福士成豊の住宅です。他のお風呂に比べると 浴室がゆったり?



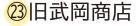
6旧松橋家住宅

この窓からの月明りだけでお風呂に入れるでしょうか?



18旧来正旅館

永山駅(旭川)前の旅館です。浴室のものはもちろんですが、洗面用ナガシに備えられた蛇口付きの湯沸器にも注目しましょう。



開拓の村で見られるお風呂では最も大きな浴槽です。



38旧ソーケシュオマベツ駅逓所

宿泊機能もあった人馬の継ぎ替え所のお風呂は、建設当初は無く、後に増設されたものになります。

番外編

療の浴場の写真が展示されている<mark>③旧札幌農学校寄宿舎</mark>

複数購入し入浴専用の風呂釜とすることもあったというニシン釜がみられる

③旧青山家漁家住宅